

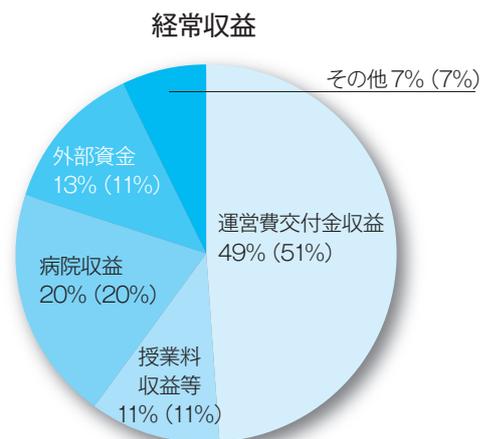
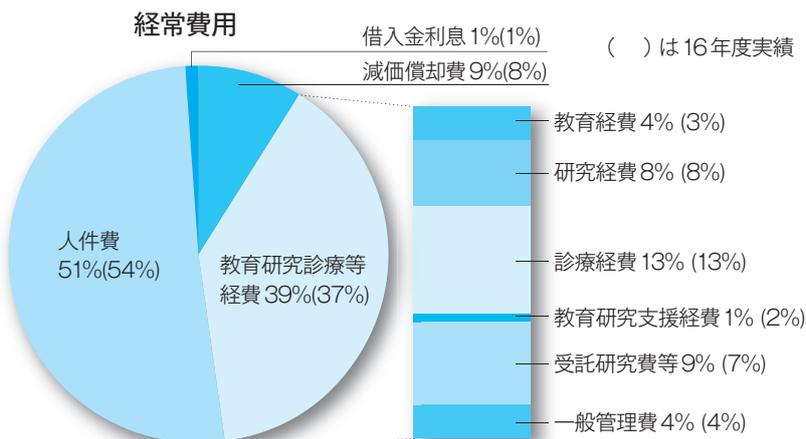


## ■損益計算書の概要

(単位:億円)

経常費用	
人件費	598
教育研究診療等経費	458
借入金利息	14
減価償却費	102
経常費用合計	1,172
<b>当期総利益</b>	<b>43</b>
<b>計</b>	<b>1,215</b>

経常収益	
運営費交付金収益	588
授業料収益等	137
病院収益	241
外部資金	158
その他	91
経常収益合計	1,215
<b>計</b>	<b>1,215</b>



### 当期総利益 43億円

収益から費用を差し引いた差額として、約43億円の当期総利益が計上されています。このうち、資金の裏付けのない帳簿上の利益が約13億円、本学の運営努力によって生じた利益が約30億円です。その内容は次のとおりです。

1. 国立大学法人に特有の会計処理等から生じたもので資金の裏付けのない帳簿上の利益…約13億円
  - ①国立大学法人会計基準に基づく特殊な会計処理から生じたもの…約8億円
 

附属病院に関する借入金債務の償還期間と取得した資産の減価償却期間のずれから生じた収益と費用の差等です。
  - ②自己収入によって取得した資産の取得価額と減価償却費の差額…約7億円
 

国立大学法人会計においては、通常の業務を行った場合には

損益が均衡するような制度設計となっています。しかし、自己収入(附属病院収入、間接経費等)によって取得した資産については、取得した年度の会計処理において、取得価額と減価償却費の差額が利益として計上されることになります。

### ③その他損失…約2億円

その他損失は様々な利益要因、損失要因の差し引きによって生じているものです。

### 2. 本学における運営努力によって生じた利益…約30億円

主な利益要因としては、附属病院収入の増収や経費の削減によるものです。

この利益は資金の裏付けがあるものですので、平成18年度以降、中期計画を踏まえながら効率的な活用を図っていくことになります。